

行政視察報告書

令和6年11月15日

前橋市議会議長 様

議員 長谷川 薫

議員 近藤 好枝

議員 小林 久子

議員 吉田 直弘

記

1 期 日

令和6年10月7日（月）～ 10月8日（火）

2 視 察 先

岐阜県岐阜市、愛知県安城市

3 視察事項

岐阜市 岐阜市立中央図書館みんなの森ぎふメディアコスモスについて
安城市 小中学校児童生徒給食費無償化事業について

4 視察概要

別紙のとおり

【岐阜市】 岐阜メディアコスモスへの議員派遣報告

日本共産党前橋市議団

岐阜メディアコスモスは、「知の拠点」をになう市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センターに国際交流拠点の多文化交流プラザ、「文化の拠点」となる展示ギャラリーや講演会スペースなどを持つ複合文化施設です。大変多くの市民が同施設を利用しています。日本共産党前橋市議団は、図書館を中心に同施設を視察しました。

1、図書館運営

（１）岐阜市立図書館の蔵書及び規模、コンセプト

同図書館の面積は約 8 3 6 5 m²、蔵書の収納能力は最大 9 0 万冊の大規模図書館でした。こども図書、ヤングアダルト（YA）が充実しています。利用者にとって居心地の良い「滞在型図書館」を目指し、落ち着いて読書ができるよう様々な工夫を凝らした読書コーナーが設置されていました。グループ学習ができる個室などもありました。小説、大活字本、文庫・新書、大型芸術本、郷土資料、ファッションライブラリー、洋書、ヤングアダルト、紙芝居、育児支援、絵本、0 歳から 2 歳向けの絵本コーナーがあり、それぞれのコーナーの周辺に大きな読

書スペースが配置されていました。

（２）充実した児童書コーナー及びこどもへの読書普及の取り組み

同館はこども図書ブースと一般図書コーナーが同じフロアの中で一体に運営されています。時々、小さなこどもの泣き声が聞こえたり、大きな声が聞こえる時もあるそうです。同館は「こどもの声は未来の声」を運営の柱の一つに掲げ、こどもたちの成長を応援、見守る活動をしています。最初の頃は泣き声や大声に苦情もあり同館の考え方を説明してきたそうですが、次第に利用者が理解を示すようになってきたそうです。実際には一般図書とこども図書コーナーが密接しているわけではないので、こどもがお母さんと普通に話していても気になるほどではなく、静粛性は保たれている印象でした。

こどもへの読書を普及するイベントや企画も行われています。毎年７月から８月にかけて「子ども司書養成講座」を行い、子どもたち自身の声で学校の先生や親、友だちなどに読書の楽しさや魅力を発信できるようにする子ども司書制度があります。４日間で１６講座中１４講座を受けると認定され、２０１５年に始まりすでに１５０名を超える子ども司書が誕生しています。講師は主に図書館長や同館の司書がつとめ、図書館のお仕事や本の魅力を伝える取り組み、POPづくりなど実際に体験と交流を通して楽しく学べる仕組みが用意されてい

ます。子ども司書が、地元 FM 局のメディアコスモスが企画した番組に出演するなど活躍の機会も用意されています。

そのほか読み聞かせなど様々な企画を行う「おはなし会」(毎月 1 回)、「えほんフェスティバル」などこども向けの企画も行われています。おはなし会では、子どもと保護者を対象にした企画も行い、きめ細やかな読書普及に取り組んでいます。こどもが飽きない工夫にも余念がありませんでした。たくさんの本を猫型の手押し車で運べる「にゃんこカート」や秘密基地のような形の一人向け読書スペースなどこどもも楽しく滞在できる工夫がされています。司書一人一人が市内の公立学校を担当し、学校司書と連携し読書普及などに取り組んでいます。

(3) ヤングアダルト (YA) コーナー

ヤングアダルトコーナーの取り組みは、いわゆる思春期世代のこどもたちが周りの目を気にせずに読書に専念できる専用スペースを設けています。同世代の利用者が司書に質問し、司書が様々な質問に答える「YA 交流掲示板」を通し対話的な取り組みが充実しています。子どもからは勉強に役立つ本の質問ばかりでなく、将来の夢、ピアノが弾けるようになりたいなどの目標、恋愛の相談、生き方など様々な質問が寄せられます。これら一つ一つの質問に、司書が丁寧に参考になる図書のアドバイス、工夫と真剣に子どもの悩みに向き合いメッセージ

を返します。質問の数も多く、常連もあり、司書からの回答を楽しみにしている利用者や親御さんもいます。司書と利用者を結ぶ対話的な努力がされていました。

（４）障がい者への支援

障がい者への読書支援も充実していました。視覚、聴覚の障害がある方への支援として、図書資料の音声化のほか、視覚障害がある方のために対面で実際に本を読んで伝える対面読書コーナー（予約制）、パソコンを使い音声で読み上げるサービスなども行われ、様々なハンディキャップに対応するため、月に１回程度希望の本を定期的に郵送貸出しするサービスも図書館の負担で行っています。

２、展示スペース

そのほか、図書館のほぼ中央には展示グローブ（コーナー）があり、地元のサッカーＪリーグに所属する FC 岐阜のコーナー、市内の商店・飲食店などを紹介する「みんなのたからもの MAP」を展示し、近隣の商店、飲食店などへ利用者の流れを作り出す展示もありました。図書館内の企画で完結させず、地域との結びつきを作る交流の結節点の役割も果たそうとしている印象を持ちました。そのほかにも読みたい本探しのヒントやレファレンスのヒントなど、司書の手で

作ったパネルでわかりやすく案内していたのが印象的でした。展示コーナーの真ん中には、市民がおすすめの本を紹介する「みんなのライブラリー」があり、POP などで本の紹介もしていました。

3、レファレンスカウンター

レファレンスカウンターは、図書館のほぼ中心部に大きなカウンターがあります。図書館に入ってつきあたりの多くの利用者が通過する場所になるので、資料探しなどで気軽にカウンターをたくさんの人が利用していました。児童書コーナーにも、子ども向けのレファレンスコーナーがあり、保護者や子どもの資料探しを支援しています。これらのコーナーのわかりやすい場所への配置は、図書館でも最も重要なレファレンスの強化に欠かせないと感じました。

4、グッズ販売

レファレンスカウンターでは、ピンバッジ、マグカップ、2種類のマスキングテープがオリジナルグッズとして販売されていました。ピンバッジとマスキングテープは特に人気がありました。しおりはすぐに売り切れてしまったそうです。記念グッズを希望する来館者の声に応えて作ったそうです。そのほか、岐阜市史の販売、同館のイベントで行った講演会をパンフレット化し販売していました。

5、最後に

岐阜市立中央図書館の取り組みは、充実した司書体制のもと、司書が利用者と図書館を結ぶ積極的な役割を果たしていることがわかりました。同時に館外にも目を向けて、地域の情報を発信する積極的な取り組みも印象に残りました。

本市では、図書館本館を中心街に移転し、さらに現在元気プラザ21内にあるこども図書館も同じフロアに移転し、一体型の図書館として運営する計画です。図書館の考え方、コンセプトを明確にして市民に発信し、これまでのサービスをさらに充実させ、市民と図書館を結ぶ司書の役割はますます重要になります。

さらに本市では、岐阜市立図書館のような対話型、滞在型の図書館を目指していますが、新本館への移転へ向け、大変参考になりました。司書の力量強化はもちろんですが、司書体制そのものを抜本的に充実させる必要があります。司書がもっと新本館の移転に深く関わり、設計や施設、ブースの配置に関与することが必要です。

入念な準備が欠かせません。もっと市民向けのイベントなどで市民の新本館への要望などを積極的に集め、市民、利用者がより使いやすく、子どもからおとなまで資料閲覧や調査、学びと交流の拠点として活用される図書館の整備が必要と感じました。

安城市 行政視察報告

小中学校児童生徒給食費無償化事業について

令和 6 年 10 月 8 日

日本共産党前橋市議団

安城市も、これまでは、第 3 子以降学校給食費無償化にとどまっており、完全無償化を求める市民による署名活動や議会請願などが行なわれてきました。しかし、令和 5 年 2 月の市長選挙で、子育て世帯の保護者の負担軽減を図る目的で、小中学校給食費無償化を公約に掲げた現市長が当選し、一気に実現しました。

同年 6 月議会で 9 月から開始するための補正予算が上程され、可決されました。対象は、市内小中学校へ通う児童生徒とし、アレルギー等を理由に欠食する児童生徒の保護者、及び、特別支援学校、市外の学校に通う児童生徒の保護者にも給食費相当額を支給しています。

令和 5 年実績で、アレルギー等を理由に欠食した児童生徒は、小学校 150 人、中学校 127 人。また、特別支援学校、市外の学校に通う児童生徒は 178 人で、支給額は 12,433,012 円でした。

令和 6 年度の、対象児童生徒数は、市内小中学校に通う約 1 万 6 千人と、特別支援学校や市外小中学校へ通う約 200 人です。1 人当たりの負担軽減額は、年間小学校 53,480 円、中学校 61,120 円で、事業費は、給食費実費徴収金相当額 9 億円と、欠食児童生徒、特別支援学校、市外小中学校児童生徒への給食費相当額補助金 3,000 万円、合わせて 9 億 3,000 万円となっています。

群馬県内では、35 市町村のうち 21 の市町村が、小中学校給食費の完全無償化を実施していますが、愛知県では 54 自治体のうち、小中学校給食費無償化は 6 市村のみにとどまっており、県内では先進的な取り組みとなっています。無償化については、いくつかの段階的实施案も出ましたが、最終的には、市長が完全無償化を決断したそうです。

子育て世帯の応援施策として、給食費の無償化に取り組む自治体が、全国で増加していますが、本来無償化は国が責任をもって進めるべき事業です。すべての自治体が等しく少子化対策や子育て支援策を充実できるように、国や県が財源を保障していくことが大切です。本市も、国や県に給食費無償化の実施を強く求めていくとともに、本市も財源を確保し、小学校の早期無償化の実施が必要であり、実現は可能であると改めて思いました。

また、安城市は 3 つの共同調理場があり、運営を公益財団法人安城市学校給食会へ委託しています。令和 3 年 9 月から稼働した、新しい北部学校給食共同調理場も見学させていただきました。

北部共同調理場は、1 日 1 万食の調理能力を有し、ドライシステムの導入、ア

アレルギー食(150食)調理室の設置、2階見学コースの設置などを特徴としています。

2階からは、野菜や果物などを3回以上丁寧に洗う様子や、野菜を機械や手作業で裁断する様子、大きな回転釜で煮物や、炒め物を女性の調理員さんが2〜3人がかりでかき回す様子などが見られるようになっていました。1釜約1,000人が調理できる蒸気式の回転釜を、大きなへらで2〜3人がかりでかき回すのはかなりの重労働であり、大変な作業だと思いました。さらに、揚・焼・蒸し物室、コンテナ室、食器の洗浄室などにゾーン化され、最新の機械化されたシステムとなっていました。

蒸気釜の実物が展示されていましたが、改めてその大きさに驚くとともに、子どもたちも調理職員の苦労を実感し、残さず食べるなど、施設見学が子どもたちに食の大切さを学ぶ機会にもなっていると感じました。見学に訪れた子どもたちの書いた絵や手紙などが展示されていましたが、調理職員に対する感謝の気持ちがあふれていました。

共同調理場整備の総事業費は約41億5,500万円で、用地費約3億円、建築・外構工事費約27億6,700円、備品・消耗品費約9億8,570万円などです。財源は、基金、市債の発行、文科省の学校施設環境改善交付金などを活用したとのことでした。

本市も安城市と同じく共同調理場の建て替えを控えており、大変参考になりました。特に、アレルギー食対応の調理室を設置するなど、子どもたち一人ひとりに配慮したきめ細かい対応をしていることに感心しました。

また、本市も、給食調理場の整備とともに、調理職員と子どもたちの交流の機会を多く確保することが大切であると思いました。生産者や調理員への感謝の気持ち、栄養バランスや残さず食べるなど、学校給食を通して、食の大切さを子どもたちが学ぶ機会として、共同調理場の果たす役割も大変大きいものがあると感じました。